

潮 傷 み

能村 研三

破笠の芭蕉像

俳人協会は本年創立六十周年を迎えるのを記念して「俳人協会所蔵の名品展」の図録を作成しているところで、担当の専門職員といろいろ話す機会があった。

その中で我が家に伝蔵されている破笠（はりつ）作の芭蕉像の話に及んだ。破笠は芭蕉の弟子の一人で漆芸家、肉筆浮世絵を描いたことでも知られている。国語の教科書等でお馴染みの芭蕉像はその多くを破笠が描いたものとされている。

我が家にある芭蕉像については、先師登四郎の遠縁のおじにあたる山本安三郎の子供の川合家の伯母からの遺品として送られたものである。山本安三郎は登四郎が生まれた谷中清水町で医師をしていて、登四郎に俳句のてほどきをし、「曾良の随行日記」を発見した人でもあり、登四郎に大きな影響を与えた人物である。山本家、川合家は共に現在では途絶えてしまったが、近年川合家の墓を能村家の墓に合体し祀っている。

この度、協会の専門職員が国会図書館に出向き、この芭蕉像について

大正五年に山本安三郎が書いた貴重な文章を見つけてくれた。

「建築工芸叢誌」という本の中で「小川破笠と其作芭蕉翁像」という題で書かれたかなり長い文章で、私の家の芭蕉像と同じ写真が掲載されていた。いずれ機会があれば、国会図書館に許可を得て、「沖」にも掲載したいと思っている。

安三郎は「笠翁の芭蕉像は他の陶像とは違ひ、十年餘も親しく師事して、常に其左右に侍し、芭蕉の風貌性格を知悉して居り、殊に敬虔の念を以て、其陶像を作ったのであるから、単に風貌写した而已でなく、其精神をも写し出して居るものであるうと思ふ」と述べている。

破笠は三二歳の時に芭蕉は五一歳で亡くなっているが、芭蕉像の芭蕉はおそらくは四十代の頃の風貌が模したものと言われている。

こんな貴重な資料が出てきたことに驚いたが、これを機会に破笠のことや山本安三郎についても、もっと勉強してみなければならない。

能村 研三

潮 傷 み せ し 風 鈴 の 音 を 愛 す
熱 戦 の 判 官 鼯 肩 と こ ろ て ん
晩 夏 光 結 び 目 美 し き 舳 ひ 綱
余 所 の 子 が ゐ る 池 僕 の 夏 休

磨 り 溜 む る 墨 の 香 ほ の か 夜 の 秋
ゆ く 夏 の し づ か に 速 き 持 ち 時 間

今 朝 秋 の 扉 の 奥 に ま た 扉

白 桃 は 水 を は じ き て 夜 の ジ ャ ズ

厄 日 来 て 指 に 確 か む 鍵 の 形

括 り て も 括 り て も 萩 抗 へ り